

神経系疾患分野

特発性正常圧水頭症（021）

1. 概要

特発性正常圧水頭症 (idiopathic normal pressure hydrocephalus: iNPH) はくも膜下出血、髄膜炎などの先行疾患がなく、歩行障害を主体として認知障害、排尿障害をきたす、脳脊髄液吸収障害に起因した病態である。高齢者に多くみられ、緩徐に進行する。適切なシャント術によって症状の改善を得る可能性がある症候群である。

2. 疫学

地域住民を対象とした疫学調査では、65歳以上の高齢者住民の1.1%がiNPHの疑いがあるとされているが、これはiNPHの有病率を正確に示すものではない。

3. 原因

多くのiNPH患者にシャント術が有効なことより、その病態に脳脊髄液循環動態の異常が関与していると考えられるが、この脳脊髄液循環動態の異常をきたす病因は不明である。iNPH患者のほとんどが高齢者であるので、加齢が重要な因子であることは間違いがないと思われる。

4. 症状

歩行障害は91%、認知障害は80%、排尿障害は60%に認められる。

歩行障害は、歩幅の減少、足の挙上低下、開脚歩行が特徴である。認知障害は、初期より精神運動速度が低下し、注意機能、作動記憶が障害される。iNPHで障害されやすい機能は前頭葉と関連する機能である。排尿障害は、尿意切迫、尿失禁が主体である過活動性膀胱である。

5. 合併症

歩行障害に伴う転倒による骨折や頭部外傷。進行例では長期臥床にともなう呼吸器感染症などが問題となる。

6. 治療法

現在、手術以外に高いエビデンスに指示された治療法はない。手術法については、交通性水頭症に対する一般的な手術法と同様であり、脳室腹腔シャント術、脳室心房シャント術、腰部くも膜下腔腹腔シャント術がある。

7. 研究班

特発性正常圧水頭症の病因・病態・治療に関する研究